

■森田正馬 精神科医。病院の日常に新風もたらし、神経症に行動中心の“森田療法”を開発、多くの信奉者を得た。

もりたまさたけ

佐賀の乱・・・1874＝ 高知県香美郡富家村で、農家の養子に入った小学校教員森田正文・亀の長男に生まれる。

幼時より虚弱であったが、

大久保暗殺・1878＝ 4歳：この年誕生した弟徳弥とは仲良く、

勉強嫌いで、農業の手伝いをして育ち、

明治14年政変1881＝ 7歳：

岩倉具視没・1883＝ 9歳：この頃、父から「真宝」の素読を命じられるも身が入らない一方、村の寺で極彩色の地獄絵を見て衝撃を受けるなど過敏で、未だに夜尿症がおさまらず、

内閣発足・・・1885＝11歳：「蒙求」1枚すら覚えられないありさまで、

国民之友始・1887＝13歳：_県立高知第一中学校に入学したが、

帝国憲法発布1889＝15歳：

_精神不安定による成績不良、脚気・心臓病・腸チフスなどに罹ったり、活路を求めて無断で上京して結局失敗するなどしたため、

大本教・・・1892＝18歳：

日清戦争始・1894＝20歳：

日清戦争終・1895＝21歳：_ようやく卒業。大阪の病院経営者の後継ぎを条件に援助受け、父に隠して熊本の第五高等学校に入学、

白馬会・・・1896＝22歳：_露見して契約解消となるも、従妹と結婚することで通学は認められ、1年下の寺田真彦とも親友になり、

八幡製鉄始・1897＝23歳：_健康にもなり、居合術の初伝を受けるなどして、学業も順調に進み、

子規句歌革新1898＝24歳：_好成績で卒業して、東京帝国大学医科大学に入学。日本の精神医学の草分け呉秀三の門下生となり、

Bushidou・・・1899＝25歳：_脚気による神経衰弱が再発して精神医学を目指すようになり、対処の仕方を発見して克服、成績も上昇、この間、井上円了の「催眠術治療法」を知り、

田中正造直訴1901＝27歳：妻を呼んで家庭を持つ。

教科書疑獄・1902＝28歳：_卒業後、

日比谷公園・1903＝29歳：_希望者なかった精神医学教室の副手になり、実務修業のため、呉が院長をしていた府立巢鴨病院医員にも

なると、早速、病院看護人講習会をつくり、オルガンを購入して遊戯を奨励したり、看護婦に軍隊式訓練を行う。呉の命で東京慈恵会医院医学専門学校教授にもなり、生活も安定。催眠療法の研究に取り組み、

日露戦争始・1904＝30歳：この年、弟が日露戦争で戦死。井上円了「心理療法」にも触発されて、_強迫神経症の治療に成功。

日露戦争終・1905＝31歳：私立日本女学校の講師に招かれ、直後に講師となった藤村トヨと出会う。_戸外作業など作業療法に接近、

満鉄発足・・・1906＝32歳：_実力を評価されて根岸病院の医長を任されると、

韓国反日暴動1907＝33歳：_呉が勧めてくれた千葉医学専門学校の教授就任を煩悶熟慮の上辞退、市井の医者を選び、

アヲチ創刊・1908＝33歳：_日本女学校が廃校となり、藤村トヨが校長を務める体操音楽学校の講師に招かれ、以後10年、無給で協力。

韓国併合・・・1910＝36歳：

大逆事件判決1911＝37歳：この間、死産・流産してきた妻に男児正太郎が誕生。_根岸病院では懸案の看護人講習会も実現、

明治天皇没・1912＝38歳：_自宅に“日曜宅診”の看板を掲げ、アカデミズムへの誘惑の迷いを完全に断ち切るに至る。

21ヶ条要求・1915＝41歳：_その後、根岸病院と東京慈恵会で研究と臨床に努めるかたわら、自宅に診察に訪れる神経衰弱とされる患者を対象に、様々な療法を試み、神経衰弱説を整理して神経質と名付けるなど、苦闘の末、

自ら作り上げてきた療法で、初めて患者の治癒に成功、

この間、支えてくれる妻も正当な職員として扱い、給料などきちんと支払い続け、妻も“森田療法”を身につけてしまい、夫の留守には代役を務めるまでになって行く。

ベル仁条約・1919＝45歳：_ある重度の患者を転地療養のつもりで自宅に置き付き添って見たところ軽快、ついに“森田療法”を確立、

大暴落・・・1920＝46歳：_患者が増えて行くなか、里帰りして小学校に遊具を寄付などするが、重い腸疾患に罹って生死の間をさまよい、ようやく回復して帰京するも、以後、健康は下降線、

原敬首相暗殺1921＝47歳：「精神療法講義」を出版、

水平社結成・1922＝48歳：_「神経質の本態と療法」を著して、世に問い、

護憲三派圧勝1924＝50歳：_アカデミズムの抵抗の中、呉の支持によって医学博士号。諸雑誌から執筆依頼あるも、

治安維持法・1925＝51歳：_大量咯血して結核の進行を自覚、

共産党事件・1928＝54歳：

世界恐慌・・・1929＝55歳：肋膜炎にも罹り、_ついに根岸病院も退職するが、

海軍軍縮条約1930＝56歳：一人息子正太郎を結核で失い、

満州事変・・・1931＝57歳：気管支喘息と_重病と闘いながらも、患者を指導し、講演旅行、

芥川直木賞始1935＝61歳：妻が急逝。

_衰弱著しいなか、

日中戦争始・1937＝63歳：_自己の学説を信奉する門下生らに囲まれ、高良武久・水谷啓二ら正統の後継者も育つ中、

健保+総動員 1938＝64歳：肺結核で_没した。